

2008年(平成20年)7月28日(月曜日)

新事業や技術開発に挑
戦する建設業者が取り組
みを発表する第3回建設
トップランナーフォーラ
ムが、7月24日と25日に



全体フォーラムでの事例発表

港区の建築会館で開か
れ、2日間で、昨年の第
2回を約100人上回る
延べ約600人が参加し
た。建設企業による環境

初日の24日は、ガラス
廃材を再資源化した新素
材「ミナクルソル」を、
環境緑化の保水材や水産
養殖のろ過材として活用
する技術を確認した日本

「公共事業費の削減など
建設業を取り巻く環境は
厳しさを通り越して危機
的狀況だ」との認識を示
した。そして「大事なこ
とは元気を出し、知恵と

に分かれ、ワークショップ
形式で▽アグリビジネス
11事例▽環境ビジネス
7事例▽環境・建設技術
4事例▽環境・森林再生
3事例▽環境バイオマス

アグリビジネスの会場
では、農業生産法人の設
立によるブルーベリーや
熱帯果実ドラゴンフルーツ
の栽培事例などを紹介。
事業着手の背景やき
っかけ、経緯などとも
に、販路の開拓、栽培技
術の確立などでの苦労、
今後の展望・課題点など
を説明した。

の開発技術などの事例を
紹介。アドバイザーを務
めた総務省消防庁の幸田
雅治国民保護・防災部長
は「いずれも完成度が高
い技術だ」と評価。その
上で、「(地方公共団体
で採用する際)メンテナ
ンス費用のコストに課題
が残る技術もある」とし、
「引き続き実用性の向上
に務めてほしい」とコメ
ントした。

第3回建設トップランナーフォーラム

2日間で延べ約600人が参加

業参入をテ
マにしたアグ
リビジネスを
はじめ、林業
との異業種交
流による森林
再生、地方再
生のための新
技術など40事
例を全国の
「トップラン
ナー」たちが
紹介した。

建設技術(佐賀県)など7
社が各事例を発表した。
同日の懇親会には、自
民党建設業新分野進出勉
強会の古賀誠会長や、国
土交通省の幹部らが来賓
として出席。古賀会長は

工夫によって生き残りの
道を切り開くことだ。こ
のようなフォーラムの開
催はたいへん意義深い
と述べ、参加企業の努力
に敬意を表した。

4事例▽地方再生・新技
術4事例の計33事例を
紹介。国土交通省や環境
省などから招いたアドバ
イザーが、各事例に対し
て感想やアドバイスを述
べた。

環境・建設技術を紹介
する会場では、自然石を
利用した透水性グレーチ
ングの開発や、ダイオキ
シン、重金属に汚染され
た港湾などの底質を無害
化し、有効活用する「ソ
イルクリーンシステム」

事例発表の終了後、自
民党の渡辺喜美金融・行
政担当大臣が地域活性化
や世界の金融取り引きの
現状などを話題に特別講
演を行った。